

営業報告

2015年4月1日～2016年3月31日

第57期決算報告書

目次

- 01 株主の皆様へ
- 02 トピックス
- 03 当期の業績について
- 07 当期の概況
- 09 技術トピックス
- 10 当期アバールデータ個別の業績
- 11 中期経営計画
- 13 株式に関する事項
- 14 会社概要

株主の皆様へ

message

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当社第57期(2015年4月1日～2016年3月31日)における連結決算の概要をご報告申し上げます。

当期における経営環境は、政府による経済・金融政策を背景に企業収益や雇用情勢に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調が続いているものの、先行きは不透明なまま推移いたしました。また、当社グループに関連深い半導体製造装置業界におきましては、大手半導体メーカーの次世代プロセス関連の設備投資により、概ね堅調に推移いたしました。

このような経営環境のもと、当社グループは市場ニーズを先取りした新製品の投入によりお客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、品質面では業界水準を越える品質の確保、また社内の業務プロセスを見直すことにより、収益性の向上に取り組みました。

今後の見通しにつきましては、国内外ともに景気の先行きは不透明な状況が続くものと思われませんが、顧客満足度の更なる向上を目指すとともに、自社製品の高付加価値製品展開による新分野への拡販、更に新ビジネスモデルの生産体制の構築等による収益性の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きより一層のご理解と力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

広光 勲

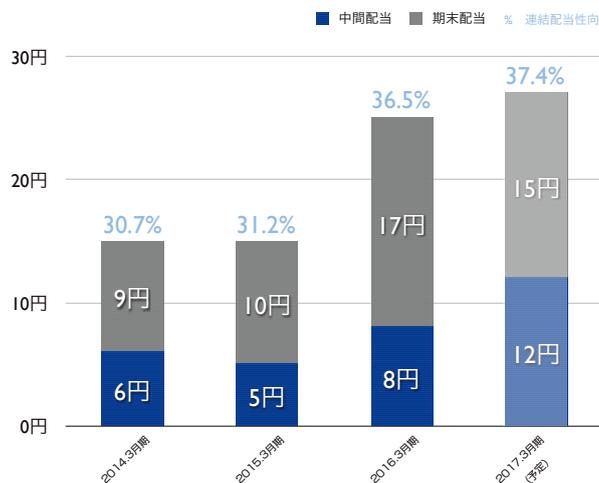


第57期 配当の実施について

当社は、将来の企業価値向上に向けた事業投資に伴う中長期的な資金需要や、財務状況の見通しなどを総合的に勘案し、連結配当性向35%を基本に、株主の皆様への成果配分を行っております。

このような基本方針のもと、当期の期末配当金につきましては、1株当たり17円とし、既に実施済みの中間配当金8円と合わせて1株当たり年間配当金は25円(前期年間配当金実績15円)といたしました。

次期の1株当たりの配当金は、中間12円、期末15円、年間27円を予定しております。



第57期に出展したおもな展示会

OPIE'15

2015年4月22日～24日(パシフィコ横浜)

第19回 組込みシステム開発技術展

2015年5月13日～15日(東京ビッグサイト)

第7回データセンター構築運用展

2015年5月13日～15日(東京ビッグサイト)

画像センシング展2015

2015年6月10日～12日(パシフィコ横浜)



国際画像機器展

Smart Energy Japan in Osaka

2015年6月10日～11日(グランフロント大阪)

第2回関西スマートグリッドEXPO

2015年9月2日～9月4日(インテックス大阪)

測定計測展2015

2015年9月16日～18日(東京ビッグサイト)



スマートグリッドEXPO

ITproEXPO 2015

2015年9月30日～10月2日(東京ビッグサイト)

InterOpto2015

2015年10月14日～16日(パシフィコ横浜)

コールセンター / CRM デモ & コンファレンス 2015

2015年11月12日～11月13日(池袋サンシャインシティ・コンベンションセンター)

赤外線フェア2015

2015年11月17日～11月19日(科学技術館)

第18回産業交流展2015

2015年11月18日～11月20日(東京ビッグサイト)

国際画像機器展2015

2015年12月2日～4日(パシフィコ横浜)

第33回エレクトロテストジャパン

2016年1月13日～1月15日(東京ビッグサイト)

Smart Energy Japan 2016

2016年1月27日～1月29日(東京ビッグサイト)

【国際】スマートグリッドEXPO2016

2016年3月2日～3月4日(東京ビッグサイト)

Korea Vision Show 2016

2016年3月9日～11日(ソウル/Coex)



Korea Vision Show

当期の業績について（連結）

損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	前期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	当期 2015年4月1日～ 2016年3月31日
売上高	6,350	6,957
売上原価	4,226	4,674
売上総利益	2,124	2,283
1 ← 販売費及び一般管理費	1,691	1,652
営業利益	432	630
営業外損益	37	32
経常利益	469	661
親会社株主に帰属する 当期純利益	306	431

1 販売費及び一般管理費1,652百万円には、今後の製品展開のための研究開発及び広告宣伝の費用689百万円が含まれております。

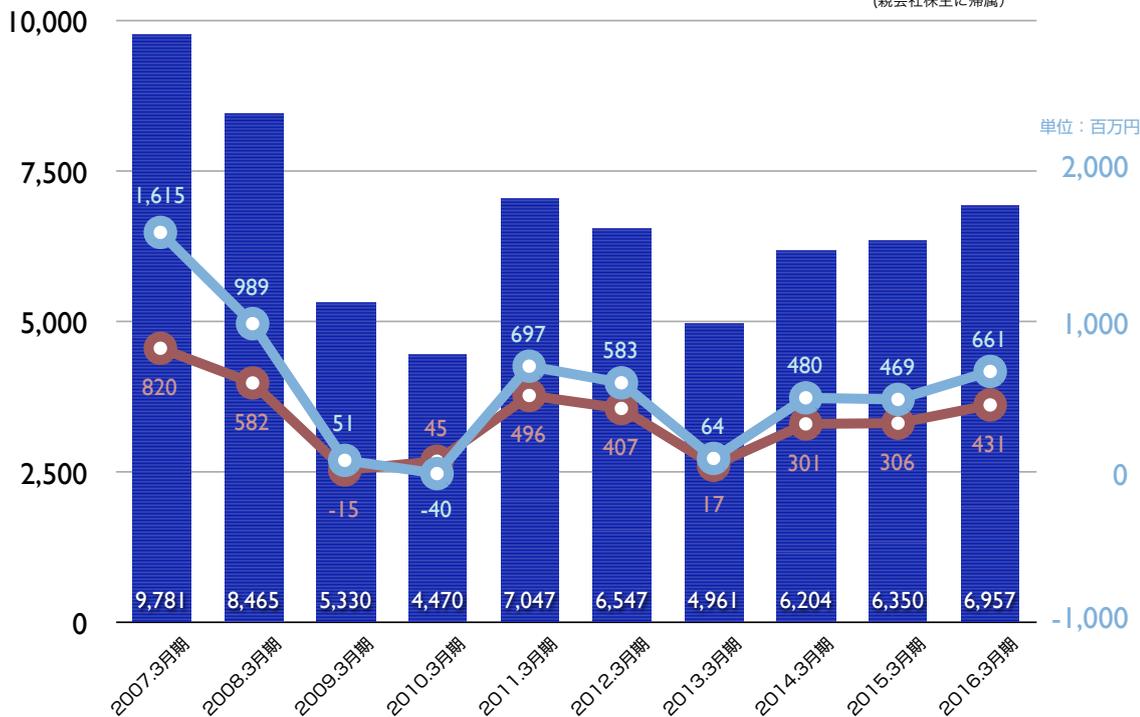
政府や日銀による経済・金融政策を背景に、企業収益や雇用情勢に改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調が続いております。しかしながら、消費者物価の上昇や株価下落、円相場の不安定な動きに加え、中国経済の減速傾向が鮮明になるなど、依然として景気の先行きは不透明なまま推移いたしました。

このような経営環境のもと、当社グループは顧客満足度の更なる向上のために、市場ニーズを先取りした新製品の投入によりお客様の装置の競争力向上に貢献するとともに、品質面では業界水準を超える品質の確保、更に社内の業務プロセスを見直すことにより、収益性の向上に取り組みました。

この結果、当期の売上高は6,957百万円（前期比9.6%増）、高付加価値製品の売上増加に加え、効率的な研究開発活動を行ったことにより、営業利益は630百万円（前期比45.6%増）、経常利益は661百万円（前期比41.1%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は431百万円（前期比41.1%増）となりました。

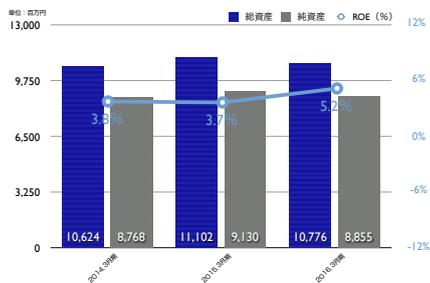
■売上高 / 経常利益 / 当期純利益

単位：百万円



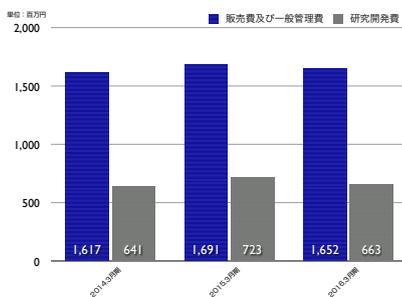
■総資産 / 純資産 / ROE

単位：百万円



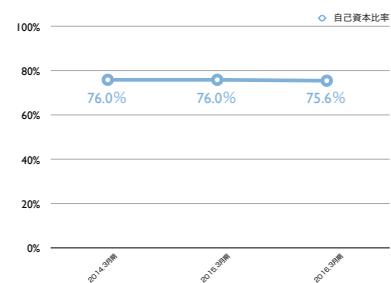
■販売費及び一般管理費 / 研究開発費

単位：百万円



■自己資本比率

単位：%



当期の業績について（連結）

貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	前期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	当期 2015年4月1日～ 2016年3月31日
■資産の部		
2 ← 流動資産	7,491	7,424
現金及び預金	3,971	3,941
受取手形及び売掛金	1,360	1,354
電子記録債権	337	455
商品及び製品	376	381
仕掛品	303	277
原材料及び貯蔵品	901	769
その他	239	243
3 ← 固定資産	3,610	3,351
有形固定資産	2,115	2,081
無形固定資産	89	67
投資その他の資産	1,405	1,202
投資有価証券	1,342	1,148
その他	63	53
資産合計	11,102	10,776

2 電子記録債権が118百万円増加し、現金及び預金29百万円、たな卸資産151百万円が、それぞれ減少した結果等により、66百万円減少し7,424百万円となりました。

3 有形固定資産33百万円、無形固定資産22百万円、投資その他の資産が投資有価証券の時価変動の影響等により203百万円が、それぞれ減少した結果、259百万円減少し3,351百万円となりました。

（単位：百万円）

科目	前期 2014年4月1日～ 2015年3月31日	当期 2015年4月1日～ 2016年3月31日
■負債の部		
4 ← 流動負債	1,549	1,620
支払手形及び買掛金	949	849
その他	599	770
5 ← 固定負債	421	299
負債合計	1,971	1,920
■純資産の部		
株主資本	7,925	7,771
資本金	2,354	2,354
a ← 資本剰余金	2,444	2,444
利益剰余金	4,174	4,012
自己株式	△ 1,048	△ 1,040
b ← その他の包括利益累計額	509	374
c ← 新株予約権	10	3
d ← 非支配株主持分	685	706
6 ← 純資産合計	9,130	8,855
負債純資産合計	11,102	10,776

4 未払法人税等115百万円、その他の前受金および未払消費税等の増加等により38百万円が、それぞれ増加し、支払手形及び買掛金が100百万円減少した結果等により、71百万円増加し1,620百万円となりました。

5 長期借入金26百万円、繰延税金負債70百万円、退職給付に係る負債22百万円が、それぞれ減少した結果等により、122百万円減少し299百万円となりました。

6 自己株式の消却等の要因により利益剰余金が161百万円、その他有価証券評価差額金134百万円が、それぞれ減少した結果等により、274百万円減少し8,855百万円となりました。

キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	前期	当期
	2014年4月1日～ 2015年3月31日	2015年4月1日～ 2016年3月31日
7 ← 営業活動による キャッシュ・フロー	320	696
8 ← 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 860	△ 103
9 ← 財務活動による キャッシュ・フロー	3	△ 622
現金及び現金同等物の 増減額	△ 536	△ 29
現金及び現金同等物の 期首残高	2,918	2,381
現金及び現金同等物の 期末残高	2,381	2,352

7 営業活動によるキャッシュ・フロー
696百万円の増加となりました。主に、税金等調整前当期純利益および減価償却費の計上、たな卸資産の減少等の増加要因が、売上債権の増加および仕入債務の減少等の減少要因を上回ったことによる増加となります。

8 投資活動によるキャッシュ・フロー
103百万円の減少となりました。主に、有形固定資産および投資有価証券の取得による減少となります。

9 財務活動によるキャッシュ・フロー
622百万円の減少となりました。主に、自己株式の売却による収入といった増加要因を、自己株式の取得による支出、配当金の支払、長期借入金の返済による支出等の減少要因が上回ったことによる減少となります。

株主資本等変動計算書 (要旨)

2015年4月1日～2016年3月31日

a

b

c

d

(単位：百万円)

	株主資本					その他の 包括利益 累計額	新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計				
平成 27 年 4 月 1 日残高	2,354	2,444	4,174	△ 1,048	7,925	509	10	685	9,130
連結会計年度中の変動額									
剰余金の配当	—	—	△ 118	—	△ 118	—	—	—	△ 118
親会社株主に帰属する当期純利益	—	—	431	—	431	—	—	—	431
自己株式の取得	—	—	—	△ 529	△ 529	—	—	—	△ 529
自己株式の処分	—	—	△ 9	72	62	—	—	—	62
自己株式の消去	—	—	△ 464	464	—	—	—	—	—
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	△ 134	△ 6	20	△ 121
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△ 161	7	△ 153	△ 134	△ 6	20	△ 274
平成 28 年 3 月 31 日残高	2,354	2,444	4,012	△ 1,040	7,771	374	3	706	8,855

当社グループでは、事業内容を受託製品と自社製品の2つの報告セグメントに分けております。

1. 受託製品

当該セグメントは、半導体製造装置関連、産業用制御機器および計測機器の開発・製造・販売を行っております。半導体製造装置関連市場におきましては、大手半導体メーカーの設備投資により、概ね堅調に推移いたしました。また、産業用制御機器および計測機器における受注も順調に推移しております。

この結果、売上高は4,535百万円(前期比7.3%増)、セグメント利益(営業利益)は591百万円(前期比5.2%増)となりました。

■ 受託製品 半導体製造装置関連

半導体製造装置の制御部を提供しております。大手半導体メーカーのLSI微細化が続く中、最先端の半導体製造装置への設備投資により、売上高は増加し、2,736百万円(前期比3.1%増)となりました。

■ 受託製品 産業用制御機器

各種の産業用装置、社会インフラ関連の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。産業用装置の新規展開が順調に進んだことに加え、社会インフラ関連が堅調であったため、売上高は大幅に増加し、720百万円(前期比15.5%増)となりました。

■ 受託製品 計測機器

各種計測機器のコントローラ、通信機器の制御部の開発・製造を行いカスタマイズ製品として提供しております。各種計測機器の受注は回復傾向にあり、売上高は増加し、1,078百万円(前期比13.8%増)となりました。

2. 自社製品

当該セグメントは、組込みモジュール、画像処理モジュールおよび計測通信機器の開発・製造・販売並びにこれらに付属する周辺機器およびソフトウェア等の自社製品関連商品の販売を行っております。一般的な産業用装置における設備投資は回復基調にあり、加えて新分野への開拓も順調に進んだため、自社製品全般において好調に推移しました。

この結果、売上高は2,422百万円(前期比14.0%増)、セグメント利益(営業利益)は537百万円(前期比48.1%増)となりました。

■ 組込みモジュール

半導体製造装置、FA全般、電力・通信関連向けに提供しております。FA全般および医療機器関連における新規受注が貢献し、売上高は増加し、458百万円(前期比3.3%増)となりました。

■ 画像処理モジュール

FA全般、各種検査装置、液晶関連機器に提供しております。各種検査装置においては、新検査装置に対応した製品開発を積極的に行ったことにより、食品、医薬品などの新分野における営業開拓が順調に進み、売上高は大幅に増加し、796百万円(前期比15.2%増)となりました。

A/D Optモジュール: Express Converter
ADO-1616-BOX

分解能16bit、サンプリング160MSpsを4ch搭載したA/Dコンバータです。サンプリング部を解析するPCとは違って使用できる製品です。取り込んだアナログデータは解析用PCへ高速光通信「GIGA CHANNEL」を使用して転送します。



短波長赤外線カメラ

ABL-005IR

512画素、ピクセルサイズ25ミクロン、950nmから1700nmに感度を持つInGaAsラインセンサを使用した短波長赤外線SWIRカメラ(近赤外線カメラ)です。



画像処理プラットフォーム
ASI-1324

Camera Link Baseカメラを
4台接続できる、
画像処理システム向け小型PC。



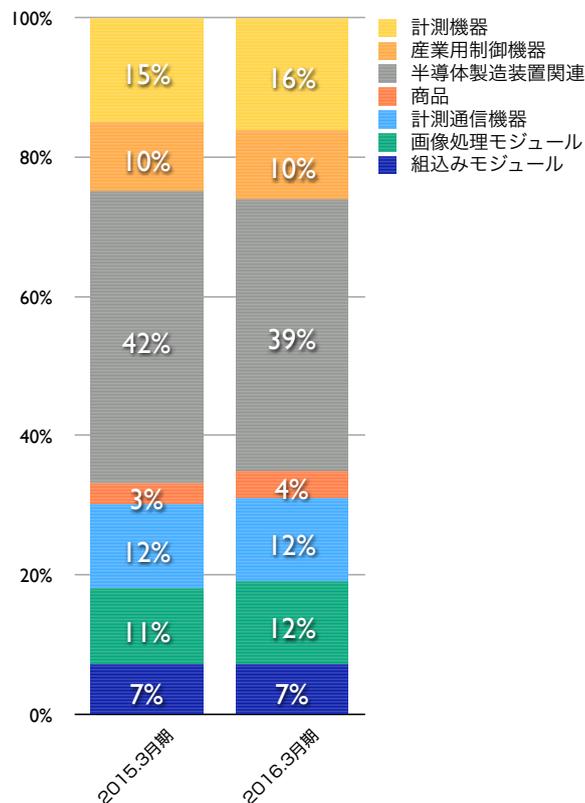
計測通信機器

超高速シリアル通信モジュール「GiGA CHANNEL」シリーズ、FAXサーバ・コールセンター向けCTI (Computer Telephony Integration)・リモート監視機器およびスマート電源装置を提供しております。「GiGA CHANNEL」シリーズ関連は、更なる超高速性の追求に伴う新規検査装置向けの開拓が順調に進み、CTI関連も順調に推移したため、売上高は増加し、857百万円(前期比10.6%増)となりました。

自社製品関連商品

自社製品の販売促進とシステム販売による高付加価値化を図るため、ソフトウェアおよび付属の周辺機器を提供しております。自社製品全般の回復により、売上高は大幅に増加し、309百万円(前期比44.9%増)となりました。

売上構成比率 (昨年度との比較)



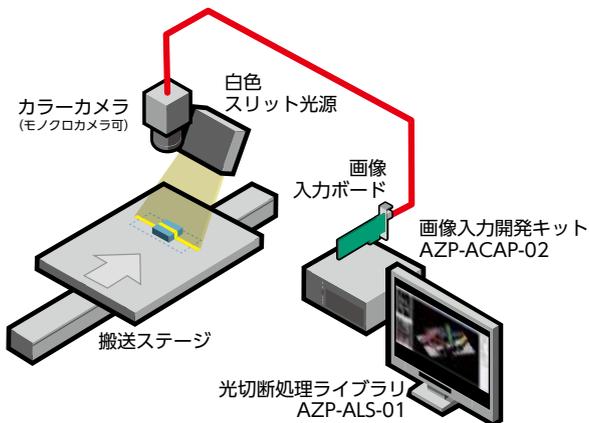
研究・開発：「カラー光切断法」三次元形状検査用処理ライブラリ

弊社独自の技術である、被写体の三次元形状と表面の模様を同時に撮影できる「カラー光切断法」において、処理アルゴリズム（ソフトウェア）を再構築し、処理時間は従来比で約5倍の高速化、高さ方向に関しては、約10 μ mの凹凸が認識できるようになり、表面の模様（テクスチャ）もより鮮明になりました。



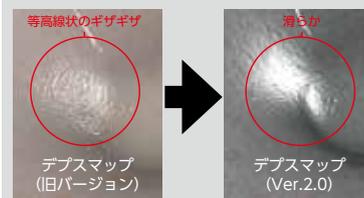
この開発により従来では検出が困難であった、微小な凹凸や打痕、キズなどの検出に加え、テクスチャ画像が改善されたことにより、これまで一般的なカメラを用いた画像検査では別々に行われていた文字やバーコードの認識などと、割れや欠けなどの形状検査が、一つのカメラで同時に処理することが可能になります。

また、LEDメーカーとの協業により撮影に用いるスリット光のラインナップも増え、従来50mm幅までの撮影用照明に対し、30mm幅までの高解像度用照明から、400mm幅まで対応が可能な広視野用照明が揃い、解像度が要求される自動車、電機業界から、鉄鋼、建築業界などの大型ワークへの対応が期待されます。



Ver.2.0で取込画像が綺麗に！

今回のバージョンアップでカメラを垂直に設置することになり以下の点が改善されています。(1) CPU処理速度高速化（従来の約5倍）(2) コントラストが改善されテクスチャが綺麗 (3) デプスマップが滑らか (4) 縦横比の等しい画像の取得



第57期に開催したセミナー



組み込み技術セミナー
Camera Linkカメラとボード：画像処理その前にPart2
町田：2015年7月10日

組み込み技術セミナー
高精度/高速データコンバータの性能を最適化する設計技術
町田：2015年10月9日

貸借対照表 (個別要旨)

(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	2014年4月1日~ 2015年3月31日	2015年4月1日~ 2016年3月31日
■資産の部		
流動資産	5,114	4,870
固定資産	3,312	3,097
資産合計	8,426	7,968
■負債の部		
流動負債	1,042	1,046
固定負債	383	264
負債合計	1,426	1,311
■純資産の部		
株主資本	6,480	6,278
評価・換算差額等	509	374
新株予約権	10	3
純資産合計	7,000	6,656

損益計算書 (個別要旨)

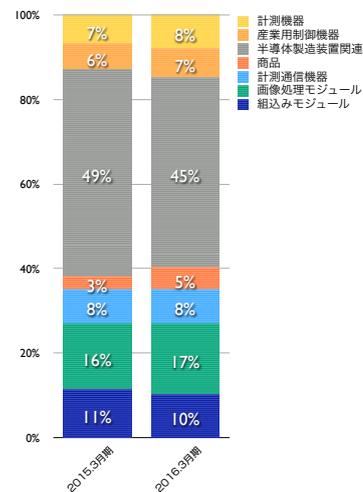
(単位: 百万円)

科目	前期	当期
	2014年4月1日~ 2015年3月31日	2015年4月1日~ 2016年3月31日
売上高	4,240	4,567
売上原価	2,815	3,006
売上総利益	1,424	1,561
販売費及び一般管理費	1,057	1,051
営業利益	366	510
営業外損益	43	37
経常利益	408	548
当期純利益	286	383

■個別 売上高 / 経常利益 / 当期純利益



■個別 売上構成比率 (昨年度との比較)



中期経営計画

中期経営計画:第58期-第60期

アパールグループは、攻めの経営による投資の効率化と固定費の最適化を行い、強い体質をさらに強化し、経営環境の変動に強い体制を確立させ、実行力で計画を達成することにより、現状の主力分野を維持して、新しい分野で35%から45%の成長を目指します。

SaaS
simpleandspeed
シンプルアンドスピード

■経営指標

第60期 2019年3月期終了時のあるべき姿

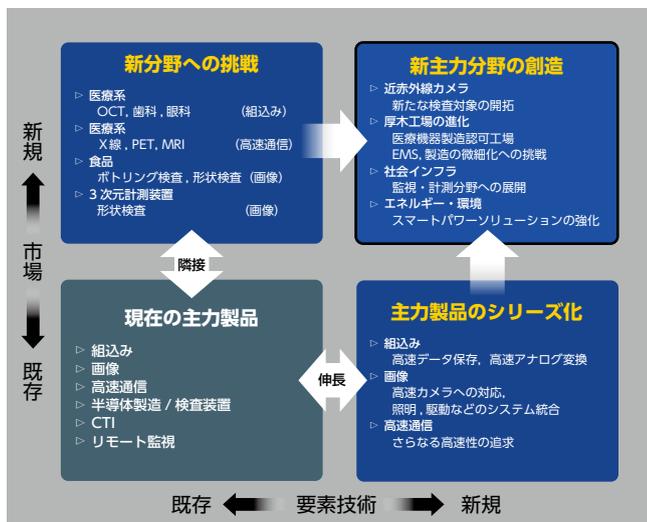


■経営戦略

「業界変革のなか新たな飛躍をめざし、強固な経営基盤と事業基盤を確立する。」

- 成長事業の確立(新分野への挑戦)
- 体質強化(スリムな企業体質)
- 生産性の拡大(微細化、多品種)

■事業戦略

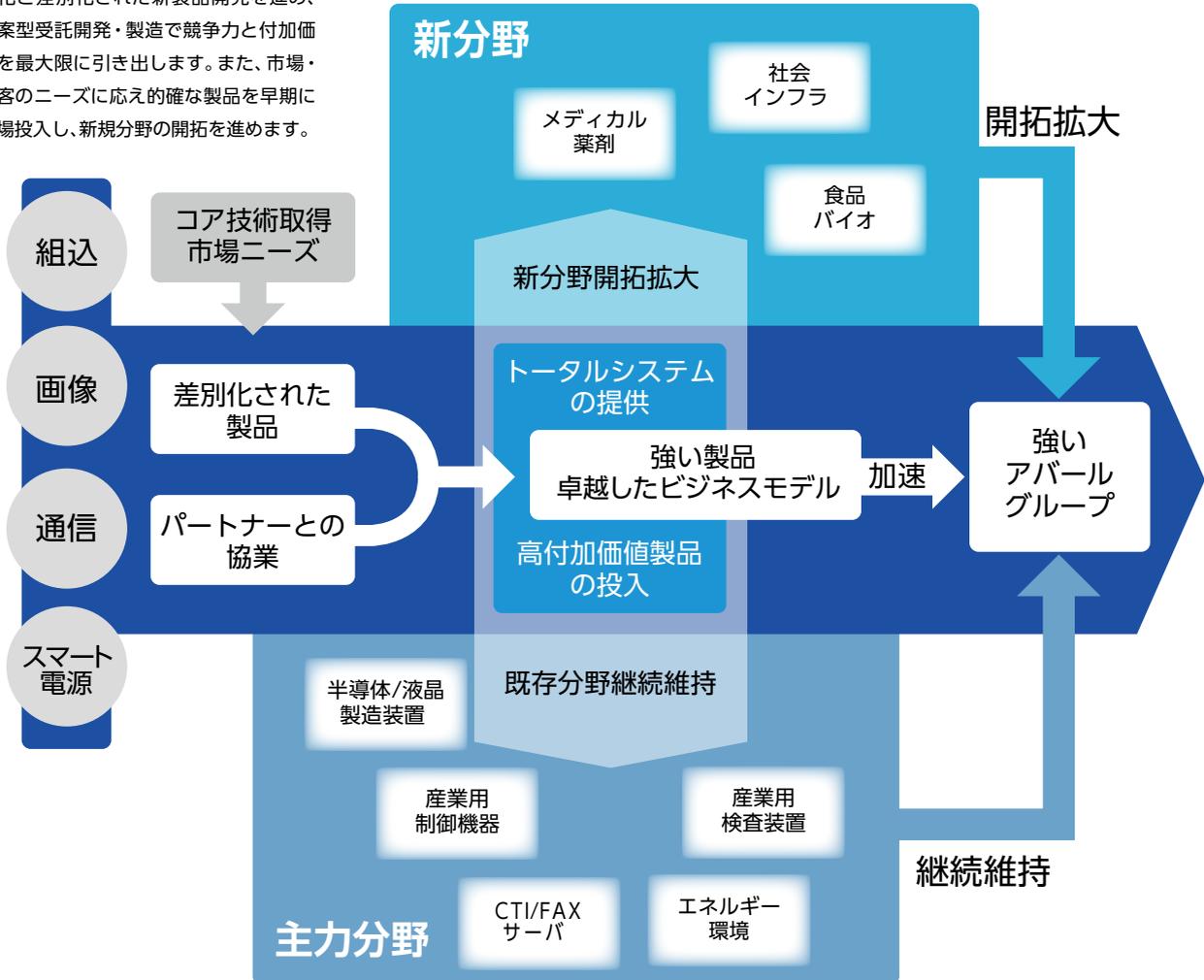


現在の主力製品を維持しながら
新たな分野へ挑戦し、
売上拡大をはかります。

差別化された新たな製品を
タイムリーに開発し、
顧客の開発期間短縮に貢献します。

■成長への事業展開

自社のコア技術をベースに、現行製品の強化と差別化された新製品開発を進め、提案型受託開発・製造で競争力と付加価値を最大限に引き出します。また、市場・顧客のニーズに応える確かな製品を早期に市場投入し、新規分野の開拓を進めます。



株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	23,500,000株
株式の種類	普通株式
発行済株式の総数	7,417,842株
株主数	2,321名
単元株式数	100株

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月開催	
基準日	定時株主総会の議決権	毎年3月31日
	期末配当金	毎年3月31日
	中間配当金	毎年9月30日

大株主 (上位10名)

株主名	持株数
株式会社ニコン	646,700株
アパールグループ社員持株会	371,121株
御船 滋	365,900株
奥村龍昭	237,000株
嶋村 清	193,400株
株式会社アクセル	160,000株
奥村秀樹	128,700株
株式会社日本マイクロニクス	119,600株
レーザーテック株式会社	109,500株
イーソル株式会社	107,000株

当社のIRに関して

当社は、投資家の皆様に広く当社をご理解いただくために、適切な情報開示に努め、さらなるIR活動の充実を目指しております。

当社株主様をはじめ、個人投資家の皆様には、当社ウェブサイト等にて、工場見学会、決算説明会の開催をお知らせし、当社及び当社製品についてのご理解を深めていただくことを心掛けております。

また、アナリスト・機関投資家向け決算説明会を年2回定期的に開催し、当社の経営状況について経営者より直接ご説明をさせていただきますいております。

今後におきましても、営業展開・製品開発などについて、決算説

明会などの資料を通じ、わかりやすい表現、内容により当社の現状をお伝えしていきたいと考えております。



個人投資家・アナリスト等向け決算説明会、工場見学会

2015年11月25日	2016年3月期第2四半期決算説明会及び工場見学会開催 : 当社厚木事業所
2016年5月19日	2016年3月期決算説明会開催 : 三菱ビル10階エムプラス

商号	株式会社アバールデータ
資本金	23億5,409万円
設立年月日	1959年(昭和34年)8月
社員数	169名(2016年3月31日現在)
事業内容	一般通信機器の製造販売、工業用計測器並びに工業用制御装置の製造販売、物理、化学、医学用等の電子装置の製造販売、その他の各種電子応用装置の製造販売
役員	代表取締役社長 広光 勲
	常務取締役 仲山典邦
	常務取締役 菊地 豊
	取締役 嶋村 清
	取締役 河合芳道
	常勤監査役 大塚忠彦
	監査役 金子健紀
	監査役 金澤健一



アバールデータの経営理念、AVALue⁺（エー・バリュー・プラス）とは、それぞれ以下の頭文字を、加えて生まれた造語です。AVAL:「Available:有用性」から付けられた当社の社名AVAL。そのうえA'には:技術の「Advance:先進性」、その品質の「Assure:保証」、サービスや対応の「Agile:早さ」など様々な「価値」の意味を表しています。u:私たちの会社の理念「顧客を第一に考える」の姿勢(u[user oriented]) e:「エレクトロニクス」に代表される当社の技術(e[e-solution])。そして+:にはAVALueを進める推進力として社員一人一人が持っている潜在力を一つのベクトルにあわせて働きかけ加速させ、いつでもお客様に必要な価値を追及し提供する決意を表しています。

商号	株式会社アバール長崎
資本金	1億3,400万円
設立年月日	1987年(昭和62年)11月
社員数	119名(2016年3月31日現在)
事業内容	電子機器の開発・設計・製造・販売(SE電源装置、CTI関連機器、半導体製造装置、画像処理機器、計測制御機器、通信関連機器、カスタム設計、FAコンピュータの研究開発・設計・製造・販売)
代表者	代表取締役社長 川浪義光

株式事務のご案内

株主名簿管理人および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

各種お問合せ先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

公告方法

電子公告の方法により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

当社のWebサイトアドレス<http://www.avaldata.co.jp>

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

株式会社アバールデータ

〒194-0023 東京都町田市旭町 1-25-10

TEL042-732-1000 FAX042-732-1022

<http://www.avaldata.co.jp>

